

2016年12月12日

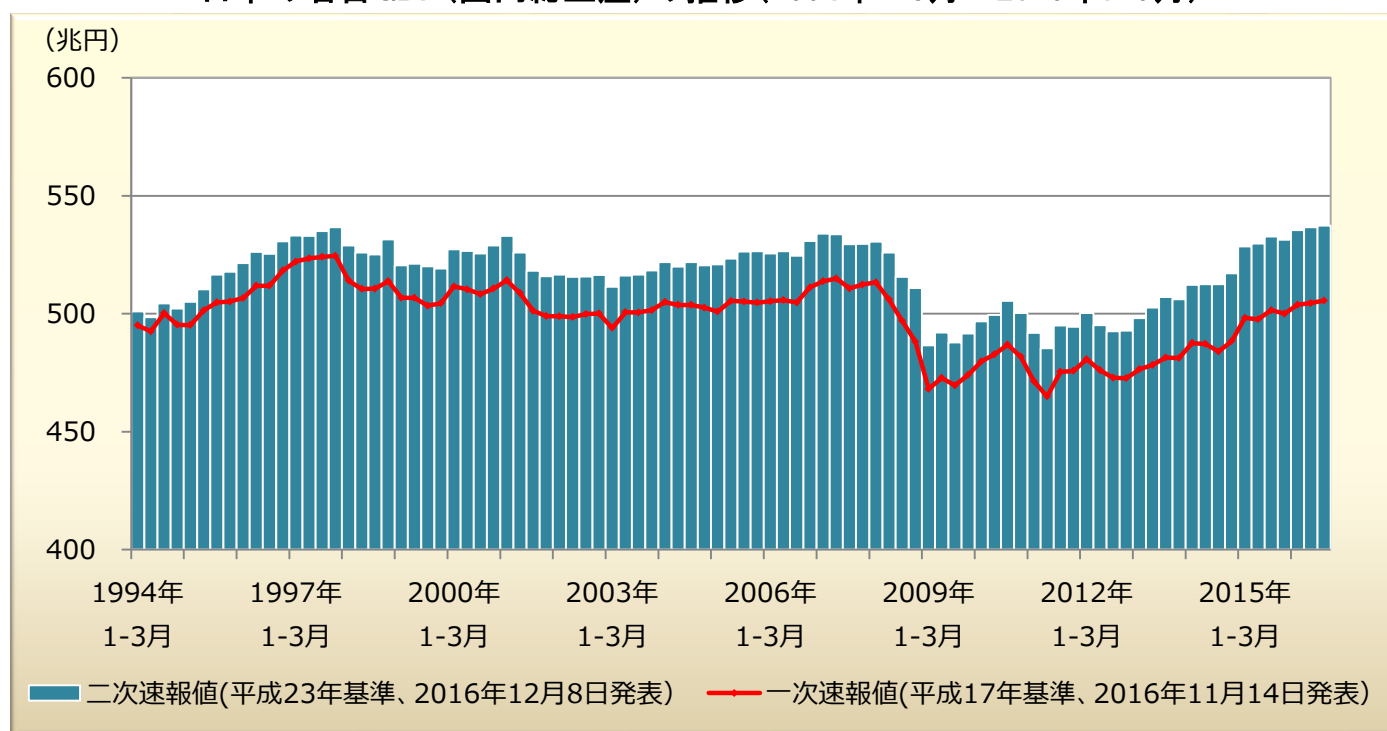
あおぞら投信株式会社

『新たなる 企業の成長 探るため
夢と発想 活きる明日へ』

今回(12月8日)発表された日本のGDP(国内総生産)の最大の変更点は、研究・開発(R&D)の総固定資本形成への算入であり、全体として2016年度名目GDPの水準が上昇しました。また、日銀も今月6日には、見直し作業を進めていた全国企業短期経済観測調査(短観)の見直し最終案を公表、2017年3月調査から「研究開発投資額」の項目を追加するとなりました。国内企業の競争力への重要度が増していると判断したため、今後、研究開発投資額の計画などを調査することになります。そもそもの今回の変更理由は、2008SNA(System of National Account)という、2009年に国連が加盟各国に導入を勧告した国民経済計算によるものです。では、企業にとってR&Dとは何でしょうか。

企業の成長ドライバーを考えると、市場開拓、顧客開拓といった外側に向けての展開があります。これは、現在の状況を発展させていくという成長の絵となります。この展開は基本的な考え方であり重要なものですが、これだけでは長期的には成長の限界があります。さらに先を見た成長のためには新たなアイデアを生み出さなくてはいけないのです。このことを怠れば企業は短期的な成長を終えたところでアタマを打ち、衰退が始まってしまおうでしょう。そのためにR&Dが必要になるのですが、この難しいところは『その成果がいつ出るのか』、『どれ位の結果が期待出来るのか』が不明な点です。だからこそ、それまでに幅広くそして深くマーケティングを実行しているかが、投資としてのR&Dの成否を決めることになるのです。目の前の課題を解決するとともに、次なる課題を自ら設ける、これが企業の成長ドライバーそのものだと考えます。

日本の名目GDP(国内総生産)の推移(1994年1-3月～2016年7-9月)



出所：内閣府

本資料は情報の提供を目的としており、何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示された意見などは、本資料作成日現在の当社の見解であり、事前の予告なしに変更される事もあります。投資信託の取得に当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)等の内容を必ずご確認の上、ご自身でご判断ください。

商号：あおぞら投信株式会社 金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第2771号
加入協会：一般社団法人投資信託協会 ホームページ・アドレス：<http://www.aozora-im.co.jp/>